

西山文愛

## 1. 事業実施の目的

- ①博士論文研究のための調査地選定。
- ②現地研究者との面談および調査手続に関わる活動

2. 実施場所：マレーシア，サバ州

3. 実施期日：平成 29 年 5 月 25 日（木）から 6 月 15 日（金）

4. 成果報告

### ●事業の概要

今回の調査において実施した活動は以下の二つである。（1）現地調査，（2）調査許可取得に向けた現地研究者と面談である。

（1）現地調査活動では、サバ州で開催される一年で一番大きな祭りである収穫祭 (*Kaamatan*) の実態を調査した。さらに、村での滞在中は、動植物の同定作業を中心におこない、鳥類を中心とした動物との関わり方と生業形態や生活に関する聞き取り調査を実施した。

（2）調査手続きにかかわる活動では、サバ州立大学において研究者と調査許可取得に向けた面談をおこなった。その結果、今後の調査実施に向けた見通しを得ることができた。今回の訪問では、現地の研究者の協力を得つつ、当初行う予定だった活動を実施することができ、結果としてすべての目的を達成できた。

### ●本事業の実施によって得られた成果

本事業では、博士論文執筆に向けて以下の活動を実施した。結果として以下に述べる成果を達成することができた。

現地調査に関しては、収穫祭 (*Kaamatan*) の実態の把握を中心におこなった。さらに、調査村に滞在中は、昨年度に引き続き、村の人たちの動植物の認識について調査を実施した。収穫祭では、具体的に以下の 2 点の項目について調査を実施した。

#### 1) 収穫祭における動植物の利用に関わる調査

- 調査項目：a. 儀礼・祭祀における動植物の役割。  
b. 神話や伝承の調査。  
c. 表象される動植物の同定作業。

#### 2) 収穫祭における人同士の関わりについての調査

- 調査項目：a. 住民間および他民族との社会関係の調査。  
b. 収穫祭の組織・運営に関わる調査。である。

さらに、調査村では、昨年度に続き、動植物の同定作業および利用方法の調査を

おこなった。この作業により、今後の調査に向けた方法論と人間関係の土台を確立することができた。

調査許可に関しては、サバ州立大学のポール・ポドロン教授との面談の結果、受け入れ機関として前向きな返答をいただくことができ、現地滞在中のカウンターパートとしての協力を得られる見通しが立った。サバ州での調査においては、調査許可の取得の難しさが一般的に知られている。しかしながら、本事業の実施によって、現地に赴き研究者や村長との面会により、次年度からの調査について展望がもてたことは、大きな成果である。今回の調査で得られた知見や成果を論文として公表し、積極的な発表をおこなっていくとともに、博士論文の執筆を進展させていきたい。

#### ●本事業について

報告者が円滑に現地調査を遂行し、無事に帰国できたことは本事業の援助があつてのことです。厚くお礼を申し上げます。本事業は学生の研究活動を進捗させるために、非常に有益なものであり、今後も事業継続を強く望みます。